

第8回 奈良県河川整備委員会 議事概要

1. 日 時 平成13年11月15日(木) 14:00~17:00

2. 場 所 奈良市西部公民館

3. 出席者 委員(敬称略) 池淵周一、木村 優、御勢久右衛門
萩野芳彦、北口照美、榊原和彦、伊藤章子
奈良県 土木部次長(技術)、河川課長 ほか

4. 議 事

(1) 第7回委員会の議事概要の確認

●事務局より、第7回委員会議事概要の説明。

○各委員により了承された。

(2) 生駒いかるが圏域河川整備計画(案)の報告について

●事務局より、「原案と(案)の対比表」を説明。

○各委員により生駒いかるが圏域河川整備計画(案)が了承された。

(3) 平城圏域河川整備計画(原案)の公開と住民意見の聴取状況について

●事務局より資料により概要説明。

○各委員から次のような意見があった。

・川づくり懇談会や流域懇談会では、住民の意見を聞くだけであったのか、それとも各意見に対してその場で回答するような形で行ったのか。

(事務局) 時間が限られているので、まず多くの意見を聞くことを優先する姿勢で臨んだが、結果的には、各意見に答えていくという形になった。

・小学生や中学生から川づくりへの要望等を聞いたり、アンケートをとるなどすれば、大人の発想とは違ったものが出て非常に有効ではないか。

・子どもたちは、自分の活動を川にぶつけていけるので、「魚がとれる」、「泳げる」、「裸足で入れる」といったことを望んでおり、子ども達の望むのが川だと思ふ。

(事務局) 本圏域においての実施は、時間的なものを含めて検討する必要があるが、少なくとも、どこかの圏域で子供たちの意見を聞けるよう取り組んでいきたい。

(4) 平城圏域河川整備計画(原案)の第1章の説明

●事務局より資料により説明。

○各委員から次のような意見があった。

・大和川流域の北部は山地が非常に少ないため、川の水が少ない。川の水をきれいにするには、下水道処理場の水を北部河川の上流に還元したり、合流式下水道により降った雨を全部処理場へ流さずに川へ流すなど、川の水を増やすことが必要。金額的に大変なお金が掛かると思うが検討して欲しい

(事務局) 今後、水質の議論をするに当たっては、いろいろな手法を検討していきたいと考えている。

- ・川をきれいにするには、水に近づける場所を増やし、人々の目を川に向けることが大切で、見えるからこそきれいでないと困ると感じる。この圏域には、河川公園や遊歩道、自転車道もあり人々が水の横を通る機会は非常にたくさんあるので、さらに川に目を向けることが大切。
- ・地域住民に清掃をしてもらいたいという姿勢でなく、何らかの活動の場として使える機会を増やし、水に対する知識を高めてもらえるようにすることも必要である。
- ・多くの河川の説明があったが、同じような目標に聞こえた。それぞれの河川に特色がないわけではないので、現状と目標に開きがありすぎて踏み込みにくいのか、少し突っ込み方が弱いように感じる。
- ・秋篠川は平城宮を流れ、唐招提寺、薬師寺の世界遺産を抱える川として、現代化、近代化しないで歴史的遺産の雰囲気が伝わるようにしてほしい。

(事務局) それぞれの川について、できるだけ特徴を出せるように工夫します。

- ・秋篠川の浄化施設はどの程度効果が出ているのか。
- ・大和川は、雨量が少なく山も少ないため水量が少ない特性がある。水量を増やすのは難しいことから、大和川の負荷を軽減するため浄化施設の効果があるのなら、徐々にでも作っていく努力が必要。

(事務局) 秋篠川の全量を浄化していないが、取水前で BOD 約12mg/l の水を5mg/l 未満程度にしている。

- ・岩井川ダムは、常時水を流して環境を良くしようということであるが、汚い川をきれいにするための水を「環境水」とか「環境用水」という言葉を使って、これを確保するためにいろいろな事業を進めるといほうがわかりやすいのでは。

- ・河川の分類をするに当たって、河川の良いところ、悪いところ、沿川の土地利用の組み合わせ、河川の規模の関係など様々な組み合わせの中から、何らかのパターン出てくれば、その中から、あるべき姿が見つかるのではないかな。

- ・川が本来の川らしくなくなった現状で、整備計画の目標として、本当に川らしく復元すべき川と、本当の川としての復旧はあきらめてしまう川の分類をしなければならぬ。そういう意味で川の分類は必要である。

- ・川ごとの川づくりにメリハリをつけるべきか、全部公平にやらない限り合意形成ができないのか、河川を分類するとすれば、その中身はもっといろいろな要素から議論しないとイケない。

- ・各河川の横断形状については、緩傾斜の護岸であれば良いというものではないので、再考してほしい。川のイメージを膨らますために、同じ程度の川幅の他府県の事例をぜひ集めてほしい。

- ・これまでの土木工学・行政のセンスで設計すると、機能一辺倒の計画となりやすい。芸術的あるいは美的センスをどこかで入れてみてはどうか。
- (事務局) これまで機能本位でやってきたため、護岸なども見栄えが悪いものになり、歴史のある奈良の川らしさが崩れてきた。そういう事を課題として取り入れていきたい。
- ・本日の意見をふまえて事務局で整理してもらおうこととし、次回さらに議論をしていただくと同時に、第2章の内容も説明していただきたい。